第３学年松組　音楽科学習指導案

指導者　　斎　藤　　聡

１　題　材　名　　なめらかなふしのかんじを生かしてリコーダーをふこう

［教材］・「ねむたいこねこ」作曲：北里康太郎
　　・「エーデルワイス」作詞：阪田寛夫／作曲：リチャード ロジャーズ

２　題材の目標

・旋律の特徴を感じ取って，想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにする。

・旋律の特徴を生かして，リコーダーの演奏の仕方を工夫することができるようにする。

３　子どもと題材

（１）子どもの実態（２８名／男１５名・女１３名）

本学級は，にぎやかで明るい学級である。全体的に学習意欲が旺盛で，張り切って学習に取り組む子どもが多い。一方で，集中して話を聞く態度に欠ける子どもや人前で表現することを苦手とする子どももおり，個人差が大きい。
音楽の学習でも，個人差が顕著で，特に歌唱ではまったく歌おうとしない子どもも見られる。しかし，元気で張りのある歌声で楽曲の雰囲気に浸って歌う子どもの姿も見られ，歌声や音色に対する感覚によいものをもつ子どもも多いと感じている。

学期末（９月末）に，子どもたちの音楽の授業に対する意識を把握するためにアンケート（「大曲仙北音楽教育研究会」平成１６年度作成）調査を行ったら下表のような結果が得られた。（抜粋）
多くの子どもが音楽を「大好き・好き」と思っているが，「好きでない・きらい」と思っている子どもも全体の四分の一に上り，あらためて指導の手立ての必要性を感じている。
特に男児に音楽嫌いが多いが，下表にもあるとおり，演奏することに対しては，ほぼ全体が「大好き・好き」と答えており，楽器演奏への関心は高い。

３年生に進級した５月末に，子どもたちは初めてリコーダーと出会い，美しい音色のリコーダーの演奏を鑑賞したり，簡単な旋律を演奏したりして，リコーダーに親しみ，基本的な奏法を身に付けることができた。
そこで，本題材の学習を通して，音楽好きな子どもたちはもちろん，「好きではない」「きらい」と答えた子どもたちの意欲が少しでも高まってほしいと願っている。

	大 好 き	好　　き	好きじゃない	き ら い
音楽の授業	**６（男0／女6）**	**１５（男8／女7）**	**６（男6／女0）**	**１（男1／女0）**
・歌うこと	６（0／ 6）	１２（6／6）	８（ 7／1）	２（2／0）
・演奏すること	１６（4／12）	１０（9／1）	２（ 2／0）	０（0／0）
・踊ったり体を動かしたりすること	３（0／ 3）	５（0／5）	１３（10／3）	７（5／2）
・鑑賞すること	１０（1／ 9）	１２（8／4）	４（ 4／0）	２（2／0）

（２）題材について

本題材は，内容「Ａ表現（２）曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って，工夫して表現できるようにする。」に関わる学習である。

ここでは，旋律の特徴から感じ取った気分や雰囲気を生かして，リコーダーによる表現の工夫を進めていくための教材として「ねむたいこねこ」と「エーデルワイス」を扱う。

「ねむたいこねこ」は，新出の運指ファを加えて，ファ・ソ・ラ・シ・ド・レの６音で演奏することができる。前半と後半がほとんど同じ構成なので，最小限の運指パターンを覚えることによって演奏できる。しばしば現れる「ラーソ」の部分では，こねこのあくびのような鳴き声を感じ取ることができる。

「エーデルワイス」は，ロジャーズ（1902 ～ 1979）のミュージカル「サウンド オブ ミュージック」の中の１曲である。新出運指のミを加えて，ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド・レの７音で演奏することができる。４度や５度といった跳躍進行がときおり現れることも特徴となっていて，ゆったりとして滑らかな曲のイメージを持つことができる。

ともに旋律の特徴を感じ取りながら，それにあわせた演奏の仕方を工夫する学習の教材としてふさわしいものではないかと考える。

（３）指導にあたって

本題材の指導にあたっては，旋律のまとまりを感じ取り，息つぎの場所などにも気を付けながら，柔らかいタンギングと滑らかな息の流れを生かしてレガートで演奏できるように工夫する活動を展開する。

「ねむたいこねこ」は，眠たそうにあくびをしているこねこたちを起こさないような気持ちで，優しく演奏させたい。各フレーズとも大きな音が出やすい「ド」の音から始まるので，息が強くなりすぎないようにさせたい。この教材においては，一斉指導を中心にしながらグループ練習を適宜取り入れ，曲想を共通に理解しながら表現を工夫する学習を進めていくようにし，次の教材「エーデルワイス」でのグループによる主体的な学習につなげたい。

「エーデルワイス」は，特に跳躍進行の部分で運指に意識が集中しすぎてしまい，息の流れがとぎれがちになると思われるので気を付けたい。また，後半のレソソの休符を挟んだリズムは，タンギングがきつくなって，１音ずつ息をぶつけるような感じになることが予想されるので，最初は音をつなげるような感じで演奏するようにしたい。また，歌詞で歌うことによって，ゆったりとして滑らかな曲のイメージをもたせたり，映画「サウンド オブ ミュージック」の該当場面を視聴したりエーデルワイスの写真を見たりすることで，曲の気分や情景を想像できるようにさせたい。「ねむたいこねこ」同様，初めは一斉指導でイメージを語り合ったり新出運指を覚えたりしながら，徐々にグループで練り合う活動を取り入れ，よりいっそう工夫した演奏へとつながるようにしたい。

４　題材の評価規準

	ア　音楽への関心・意欲・態度	イ　音楽的な感受や表現の工夫	ウ　表現の技能	エ　鑑賞の能力
歌唱	○			
器楽	◎	◎	◎	
創作				
鑑賞	○			○
題材の評価規準	旋律の特徴に関心をもって，進んで聴いたり表現したりしようとしている。	旋律の特徴を感じ取り，リコーダーの演奏の仕方を工夫している。	旋律の特徴を生かして，リコーダーを演奏することができる。	旋律の特徴を感じ取りながら聴くことができる。

5　全体計画（総時数５時間　本時４／５）

［下表における評価の観点：(ア)「音楽への関心・意欲・態度」(イ)「音楽的な感受や表現の工夫」(ウ)「表現の技能」(エ)「鑑賞の能力」］

時間	主な学習活動	学習活動における評価規準【評価方法】	十分満足できると判断する視点	努力を要する子どもへの手立て
1	「ねむたいこねこ」 ・指導用 CD を聴き，旋律を口ずさんだり感想を発表したりする。 ・ファの運指を覚え，曲全体を演奏する。	・曲に合わせて体を動かしたり，曲についての感想を発表したりして，進んで活動に取り組もうとしている。（ア） 【活動の様子観察】	◇曲想にあった身体表現をしたり，意欲的に感想を発表したりして，真剣に活動している。	◆やろうとしていることやしようとする気持ちをほめたり，意欲的に取り組んでいる友だちに目を向けさせたりするとともに，教師もいっしょに活動を楽しむ。
2	「ねむたいこねこ」 ・息の強さやタンギングの仕方を工夫して演奏する。	・ファの運指，息の強さやタンギングに気を付けながら演奏している。（ウ）（イ） 【活動の様子観察】	◇正確な運指で，息の強さやタンギング，音ののばし方等に気を付けて演奏している。	◆演奏の仕方について個別指導をする。
3	「エーデルワイス」 ・指導用 CD を聴き，歌詞を口ずさんだり，感じたことを発表したりする。 ・ミの運指を覚え，息の強さやタンギングに気を付けて曲全体を演奏する。	・ミの運指，息の強さやタンギングに気を付けながら，曲想を感じ取って演奏している。（ウ）（イ） 【活動の様子観察】	◇正確な運指で，息の強さやタンギング，音ののばし方等に気を付けて，フレーズを感じながら演奏している。	◆個別に練習する時間を確保し，教師が指づかいを示しながらいっしょに練習し，できることを増やしていけるようにする。
4 本時	「エーデルワイス」 ・映画を見て，曲の雰囲気を話し合う。 ・グループで旋律の特徴を生かした演奏の仕方を工夫する。	・滑らかな旋律の特徴を感じ取って，強弱，音の形，長さ，気持ち，等の要素に着目した演奏の仕方を工夫している。（イ） 【活動の様子観察】 【学習シート】	◇いろいろな吹き方を試したり比較したりしながら，よりよい演奏の仕方を工夫している。	◆グループで核となる子どもといっしょに活動させながら，旋律にあった演奏の仕方を工夫できるよう助言する。
5	「エーデルワイス」 ・演奏の仕方の工夫を再度話し合い，練習する。 ・グループごとに発表し合う。	・工夫した演奏の仕方に基づき，滑らかな旋律の特徴を生かして，リコーダーを演奏している。（ウ） ・友だちの発表を耳をすませて聴き，感想やアドバイスを書いたり発表したりしている（エ） 【活動の様子観察】 【学習シート】	◇グループの音色やその響きにも気を配り，曲想を生かしてレガートで演奏している。 ◇旋律の特徴を生かした演奏に関する的確な感想や助言を書いたり発表したりしている。	◆そばで演奏のタイミングを示してあげる等，表現活動への支援をするとともに上手にできた時にはほめて励ますようにする。

6　本時の実際（4／5）

（1）ね ら い

曲の気分や情景を想像し，滑らかな旋律の特徴を感じ取り，リコーダーの演奏の仕方を工夫することができる。

（2）学習過程

主な学習活動	教師の支援	評価規準
1 既習曲を歌ったり演奏したりする。	・気持ちをこめて歌ったり演奏したりできるように言葉かけをし，教師の指揮で気持ちを盛り上げるようにする。	
2 本時のめあてを確かめる。		
ふしのかんじを生かして，きれいなえんそうができるようにくふうしよう。		
3 映画「サウンド オブ ミュージック」の該当する場面を視聴し，曲の雰囲気を話し合う。	・視聴して感じたことを自由に発表させ，演奏の工夫につながるキーワードを板書する。	
4 グループで演奏の仕方を工夫する。	・強弱，音の形，長さ，気持ち，等の要素に着目した工夫を話し合い，試したり比べたりしながら進めていくようにする。 ・話し合った工夫を簡単な言葉や図形楽譜で書き込んでいけるように，拡大した楽譜を用意する。 ・各グループをまわりながら，進み具合を確認し，曲の雰囲気を意識した工夫ができるよう言葉かけをする。また，場合によっては，参考になるような他グループの工夫を紹介する。	・滑らかな旋律の特徴を感じ取って，強弱，音の形，長さ，気持ち，等の要素に着目した演奏の仕方を工夫している。（イ） 【活動の様子観察】 【学習シート】 ○十分満足できると判断する視点 ・いろいろな吹き方を試したり比較したりしながら，よりよい演奏の仕方を工夫している。 ○努力を要する子どもへの手立て ・グループで核となる子どもといっしょに活動させながら，旋律にあった演奏の仕方を工夫できるよう助言する。
5 中間発表を行う。	・発表を聴く際に簡単に書き込めるチェックシートを用意し，それぞれのグループの工夫が演奏にどう生かされているかを意識しながら聴くことができるようにする。	
6 次時の活動を確認する。	・本時のふり返りをし，次時の活動への意欲をもたせるようにする。	

一人一人の感じ方・思い・願いを大切にし，友だちと協力して音楽活動の喜びを得ることができるような学習展開の工夫

３年松組　音楽科「なめらかなふしのかんじを生かしてリコーダーをふこう」

授業者　　斎　藤　　聡

1 単元の基礎･基本と子どもの実態

◇単元の基礎・基本

「Ａ表現・器楽」

（２）曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って，工夫して表現できるようにする。

イ　拍の流れやフレーズ，強弱や速度の変化を感じとって，演奏したり身体表現をしたりすること。

◇子どもの実態

９月末に，子どもたちの音楽の授業に対する意識を把握するためにアンケート（「大曲仙北音楽教育研究会」平成１６年度作成）調査を行った。多くの子どもが音楽を「大好き・好き」と思っているが，「好きでない・きらい」と思っている子どもも全体の四分の一に上り，あらためて指導の手立ての必要性を感じた。特に男児に音楽嫌いが多いが，演奏することに対しては，ほぼ全体が「大好き・好き」と答えており，楽器演奏への関心は高かった。

３年生に進級した５月末に，子どもたちは初めてリコーダーと出会い，美しい音色のリコーダーの演奏を鑑賞したり，簡単な旋律を演奏したりして，リコーダーに親しみ，基本的な奏法を身に付けることができた。

そこで，本題材の学習を通して，音楽好きな子どもたちはもちろん，「好きではない」「きらい」と答えた子どもたちの意欲が少しでも高まってほしいと願い，本題材を実践した。

2 めざす子どもの姿と指導の方策･実際

◇本校音楽科のめざす子どもの姿

様々な音楽に積極的にかかわり，自分自身の感じ方や考え方を広げながら音楽表現を楽しみ，その表現をみんなに伝え，深めようとする子ども

◇指導の方策・実際

本題材の指導にあたっては，旋律のまとまりを感じ取り，息つぎの場所などにも気を付けながら，柔らかいタンギングと滑らかな息の流れを生かしてレガートで演奏できるように工夫する活動を展開した。

「ねむたいこねこ」は，眠たそうにあくびをしているこねこたちを起こさないような気持ちで，優しく演奏できるような表現の工夫をした。また，各フレーズとも大きな音が出やすい「ド」の音から始まるので，息が強くなりすぎないように気を付けた。この教材においては，一斉指導を中心にしながらグループ練習を適宜取り入れ，曲想を共通に理解しながら表現を工夫する学習を進めていくようにし，次の教材「エーデルワイス」でのグループによる主体的な学習につなげた。

「エーデルワイス」は，特に跳躍進行の部分で運指に意識が集中しすぎてしまい，息の流れがとぎれがちになるので気を付けるようにした。また，後半のレソソの休符を挟んだリズムは，タンギングがきつくなって，１音ずつ息をぶつけるような感じになることが予想されるので，最初は音をつなげるような感じで演奏するようにした。また，歌詞で歌うことによって，ゆったりとして滑らかな曲のイメージをもたせたり，映画「サウンド オブ ミュージック」の該当場面を視聴したりエーデルワイスの写真を見たりすることで，曲の気分や情景を想像したりできるようにさせた。「ねむたいこねこ」同様，初めは一斉指導でイメージを語り合ったり新出運指を覚えたりしながら，徐々にグループで練り合う活動を取り入れ，よりいっそう工夫した演奏へとつながるようにした。

この実践で特に重点を置いたのが，自分の感じ方や思いを出し合いながら，友だちと協力して表現の工夫を進めていく学習活動である。

ここでは主に，強弱，音の形，気持ち等の要素に着目した工夫を話し合うようにし，「①曲想にあった表現の工夫を話し合う②試したり比べたりする③書き込む」という流れで活動を進めていった。また，発表の際に互いの演奏を聴き合い学び合う活動につながるようにするため，グループに１枚ずつ拡大楽譜を用意し，強弱は線で，音の形は図形で，気持ちは言葉で，というように書き込みをしていくことで，自分たちの工夫が楽譜に残るようにした。

3 成果と課題

○　個々の感じ方や思いを大切にし，それを出し合い，話し合いながら，よりよい表現を工夫していく学習活動を展開することで，一人一人の達成感の深まりが得られる。そのような活動に重点を置いたことで，子どもたちの表現活動に対する意欲の高まりが見えてきた。子どもたちのワークシートへの書き込みにも，自分のグループの工夫だけでなく，他のグループの工夫を見つけ，そこから自分たちの演奏に生かせることを書きだすなど，次の学習に生かしていこうとする姿が見られるようになった。

○　表現と鑑賞の関連を大切にするという観点から，範奏を聴いたり，友だちの演奏を聴いたりする活動を多くしたことで，よりよい表現への意欲づけができた。

●　「音楽的な感受や表現の工夫」はそのときしか見取ることができない。しかし，教師が授業中にメモして回ると，子どもの動きから離れてしまったり，必要な支援ができなかったりすることもある。そのようなことからも，子どもに残させるという方法は有効である。さらに，どの子どもの工夫なのかがわかるように，名前も書き込むことで，教師にとっての見取りだけではなく，子どもにとっての今後の取り組みへの励みにもなる。学習展開の工夫と同時に，有効な評価方法の工夫も進めていきたい。

●　限られた時数の中では，年間を通しての取り組みの見直しも必要である。題材と教材のメリハリのある展開を再考したいものである。そのためには，一つの教材で多様な活動ができるものを選曲していくということも重要である。今後の学習展開に生かしていけるようにしたい。